



為石小学校の合言葉 「ためし 最高! ~地元で学び 地元を活かし 地元とともに行動する子ども~」



○楽しく めあてをもって しっかり学ぶ
○正しく めあてを しっかり守る
○たくましく めあてに向かって しっかり鍛える

学校だより

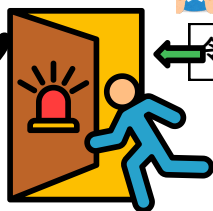


ためし



令和7年10月31日号 文責 上久木田 雄二

がんじがらめ



避難訓練を思い浮かべてください。

不審者が学校に侵入してきたとき、有効な伝達方法として、インターホンが挙げられます。

本校には5か所のインターホンがありますが十分とは言えません。予算の範囲内で揃えることができたのが5つだったのです。これまで一方通行しか通じなかったインターホンを双方向化したのが2年前です。すべての教室にインターホンがあればいいのにと心から思うのです。

地震の際の避難では、津波情報を的確に把握し、二次避難を検討することが義務付けられています。運動場に避難後、どんな手段で津波の情報を得るのかは学校判断となっています。

遠足や宿泊学習を引率するとき、非常事態が発生すると、保護者に連絡を取ることになります。宿泊場所がある場合は固定電話がありますが、遠足のときは連絡方法がなくなります。

学校には、公用の携帯電話が一台もありません。つまり、非常時に「私用」の携帯電話を使わざるを得ないのです。

全国的に騒がれた教職員による盗撮事件を皆さんもご存じだと思います。

この事件を受けて、学校での私用の携帯電話はスマートホンの使用がかなり制限されました。

これまでも、教室への持ち込みや授業での活用は禁止でした。

今では、校外学習等で画像や動画を撮ることも禁止されています。

不審者侵入時の緊急連絡や地震後の津波情報の取得、校外学習引率時の緊急連絡方法として、スマートホン等は大変有効だと思います。

しかし、現状では「私用」を使うことができないという枠組みでは、学校は太刀打ちできません。

いろいろな事件や事故が起こるたびに規制が多くなるのは仕方のないことだと思います。

規制が重なれば重なるほど、学校はがんじがらめの中でできる方法を考えなければいけません。

これまで手軽に、ある程度の範囲の中で運用していた方法を使えない状態は正直息苦しさを感じますが、保護者の皆様もご理解ください。

HPはこちら



二次元コード読み取り 「カラー版は、ホームページでご覧いただけます。」

